

2017年度研究プロジェクト「Can-do statementsを利用した言語運用能力の把握と活用」

早稲田大学日本語教育研究センター(伊藤奈津美・岩下智彦・沖本与子・毛利貴美)

四技能	No.	レベル	Can-do質問項目
読む	1	A1	お店やレストランの外に貼ってある休業のお知らせなどを見て、休みであることやその期間など、ごく基本的な情報を理解することができる。
	2	A1	宿題の内容や〆切が書かれた、先生からの短い簡単なメモを読んで、理解することができる。
	3	A1	日本語の初級の教科書にある、ひらがな・カタカナで書かれた短い文章を読んで理解できる。
	4	A2	ネットショッピングのサイトの短い簡単な説明文を読んで、機能や大きさなど、いくつかの簡単な情報を理解することができる。
	5	A2	学校の掲示板や学校からのメールなどの短い簡単なお知らせを見て、休講や教室変更など、必要な情報を探し出すことができる。
	6	A2	短い簡単なメールやSNSの文章を読んで、内容を大まかに理解することができる
	7	B1	授業シラバスなどの、ある程度長い文章に目を通して、授業内容や評価方法など、授業を選ぶために必要な情報を探し出すことができる。
	8	B1	話題になっている社会的な問題に関する簡単な新聞記事などを読んで、重要な情報を取り出すことができる。
	9	B1	話題が身近なものであれば、時には知らない単語の意味を文脈から推定し、文の意味を推論できる
	10	B2	社会的な問題などに関する意見が書かれた記事を読んで、新たな情報や筆者の立場・主張とその論拠などを理解することができる。
	11	B2	レポートや論文の執筆のために、いくつかの文献の長い複雑な文章に目を通して、参考資料としてじっくり読む価値があるかどうか、必要な情報を探し出すことができる。
	12	B2	自分の専門分野の雑誌に掲載された論文を読んで、研究目的や方法・結果などを理解することができる。
	13	C1	社会、専門、学問の分野で出会う可能性のある、学術的なある程度長い、複雑な文章を詳細な点まで理解できる。意見表明だけでなく、含意された意見や立場も含む詳細な点まで理解できる。
	14	C1	長くて複雑なテキストでも、難しい節を繰り返して読めるのであれば、自分の専門に関係がなくても、中心となる文を見つけ出し、詳細に理解できる。
	15	C1	コンテキスト上の、文法的、語彙的の手がかりから、相手の態度や気持ち、意図を推測し、何が次に来るかよく予測できる。
	16	C2	抽象的で構造的に複雑な、もしくは口語表現の非常に多い文学、および文学以外の書き物を含めて、書かれた言葉のあらゆる形式を実質的に理解して批判的に解釈できる。
	17	C2	文体の微妙な違い、明示的な意味と同時に暗示的な意味を把握しながら、幅広い分野にわたって、長い複雑なテキストを理解できる。
	18	C2	批判的な視点を持って学術的な論文などを読み、テーマや関心に応じて必要な情報を読み取って再構成し、自分の解釈を加えて考えることができる。

四技能	No.	レベル	Can-do質問項目
書く	1	A1	例えば、日常的な物の名前やあいさつ(「おはようございます」など)、馴染みのあることばを書くことができる。
	2	A1	簡単な表現や文をです・ます形の現在形・否定形・過去形で書くことができる。
	3	A1	自分自身や想像上の人々について、どこに住んでいるか、何をする人なのかについて、簡単な句や文を書くことができる。
	4	A2	日本に来てからの発見や失敗などの出来事についての感想・コメントを、短い簡単な文でブログやSNSなどに書くことができる。
	5	A2	自分自身や家族、趣味など、基本的なことについての自己紹介文を短い簡単な文で書くことができる。
	6	A2	「そして」・「しかし」などの簡単な接続詞や、「～ので」・「～たら」を使ってつなげた簡単な表現や文を書くことができる。
	7	B1	日常的な事柄を述べ、行動の理由を説明する、きわめて短い報告文を標準的な常用形式にそって書くことができる。(例: 留学や日本語学習の理由)
	8	B1	最近話題になっている社会的な問題などについて、自分の意見をまとめて、短い簡単な作文などを書くことができる。
	9	B1	異文化体験の出来事と感想を、ある程度詳しく作文などに書くことができる。
	10	B2	主張、論争、議論を含むニュース、インタビュー、ドキュメンタリーについての記事からの抜粋を要約することができる
	11	B2	アンケート調査などの結果にもとづいて、分析と考察を含む明快なレポートが書ける。
	12	B2	エッセイやレポートを書く時に、根拠を提示しながら、ある視点に賛成や反対の理由を挙げ、さまざまな選択肢の利点と不利な点を説明できる。
	13	C1	異なる観点、理由、関連する事例を詳細に加えて、特定の視点から論を展開し、レポートなどで序論、本論、結論のある文章が書ける。
	14	C1	常に高い文法的正確さを維持する。誤りは少なく、指摘された誤りを自分で修正できる。
	15	C1	自分の興味関心のある分野の話題の講義で、詳細なノートを取ることができる。記録された情報が非常に詳細で、話された内容を忠実に再現しているから、他の人にもそのノートが役立つ。
	16	C2	就職や進学に際してまとまりのある文章を書く時に、異なる情報源から情報をまとめ、論点や主張を整理して、全体的結論を示すことができる。
	17	C2	明瞭で流れるような、複雑なレポート、記事、エッセイを書き、事例を説明したり、提案や文学作品の批評文を書くことができる。
	18	C2	社会・専門・学問の分野で書く必要があるとき、自分の意見と引用を区別し、表や図を適切に説明し、解釈を加えたレポートが書ける。

四技能	No.	レベル	Can-do質問項目
聞く	1	A1	意味がとれるように間を長くおきながら、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえば、発話を理解できる。
	2	A1	こちらの事情を理解してくれるような話し相手から、はっきりとゆっくりと、繰り返しを交えながら、直接自分に話が向けられれば、具体的で単純な、必要性を満たすための日常的な表現を理解できる。
	3	A1	ゆっくりとはっきりと話されれば、休講や教室変更など、教師のごく簡単なアナウンスを聞いて、理解することができる。
	4	A2	駅のホームや電車の中などで、発着案内や電車の乗り換えなどの簡単なアナウンスを聞いて、理解することができる。
	5	A2	時々繰り返しや言い換えを求めることが許されるなら、自分に向けられた、身近な事柄について、はっきりとした、標準語での話はたいてい理解できる。
	6	A2	映像と実況説明がほとんど重なるならば、出来事や事故を伝えるテレビのニュース番組の要点が分かる。
	7	B1	発音と内容がはっきりしていれば、大学のゼミなどで、自分たちの専門に関する発表を聞いて、主要な情報を理解することができる。
	8	B1	毎日使っている機器・設備の取扱説明のような、簡単な専門的情報を理解することができる。
	9	B1	もし、話が標準語で、発音もはっきりとしていれば、自分の周りでの長い議論の要点を普通に理解できる。
	10	B2	たいていのテレビのニュースや時事問題の番組が理解できる。
	11	B2	自分の話し方を全く変えない母語話者との議論に上手に加われないかもしれないが、少し努力すれば、自分の周りで話されていることのほとんどを聞き取ることができる。
	12	B2	所属する学会の研究会などで行われる講演や発表を、スライドやハンドアウトなどを見ながら聞いて、要点を理解することができる。
	13	C1	たいていの講義、議論、ディベートが比較的容易に理解できる。
	14	C1	聞き取りにくい発話や音質が悪い場合には、時々細部を確認しなければならないこともあるが、自分の専門外の抽象的で複雑な話題についての長い発話にも充分についていける。
	15	C1	講義などの長い発話で、構造がはっきりしていない場合、または内容の関係性が暗示されているだけで、明示的でない場合でも、推測しながら理解できる。
	16	C2	母語話者にかなり速いスピードで話されても、生であれ、放送であれ、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。
	17	C2	かなり程度の高い口語表現や方言的な慣用表現、馴染みの薄い専門用語を利用した専門の講義やプレゼンテーションを理解できる。
	18	C2	専門外の内容であっても、批判的な視点を持って講義・講演などを聞き、発話者の意図を把握し、自分なりの考えを持てる。

四技能	No.	レベル	Can-do質問項目
話す	1	A1	借りたいものや使いたいものがあるとき、実物を指差して、「これ、いいですか」「貸してください」など、短い簡単な言葉で、人に頼むことができる。
	2	A1	体の調子が悪いとき、「おなかが痛いです」「気持ちが悪いです」など、短い簡単な言葉で、先生や友達に伝えることができる。
	3	A1	家族やペットの写真を見せながら、だれの写真か、場所はどこかなど、友人に紹介することができる。
	4	A2	授業の発表のあとで、コメントを直接自分に求められれば、「アイデアが良かったです」「もっと字が大きい方がいいです」などの簡単な言葉で、自分の考えを述べるができる。
	5	A2	授業などで、メモをときどき見ることができれば、自分の国の社会的な問題などについて短い簡単な発表をし、発表内容の事実確認などの簡単な質問に対応することができる。
	6	A2	最も頻繁に出現する接続表現を使って、単純な文をつなげ、物事を語ったり、描写することができる。 例) 過去の出来事, 行き方・使い方の説明
	7	B1	自分の専門でよく知っている話題について、事前に用意された簡単なプレゼンテーションができる。ほとんどの場合、聴衆が難なく話についていける程度に、はっきりとしたプレゼンテーションをすることができ、また要点をそこそこ正確に述べるができる。
	8	B1	日常生活や学生生活で問題が生じたとき、ある程度詳しく状況を説明し、苦情を言って相手に理解してもらう。
	9	B1	授業のディスカッションで、身近な社会問題について、簡単な説明や理由を交えて自分の意見を述べるができる。
	10	B2	母語話者との対話でも、相手を不用意にいらつかせたり、おかしがらせたりすることなく、相手が母語話者同士で会話している時とは別の振る舞いをしなくてすむくらいに、互いの関係を維持できる。
	11	B2	記述とプレゼンテーションを明確かつ体系的に展開できる。要点を見失わずに、関連する詳細情報を付け加えて、内容を補足できる。
	12	B2	公式の言葉遣いでも、くだけた言葉遣いでも、その場や会話の参加者に応じた適切な言葉遣いで、はっきりと理解できる。礼儀正しい言葉遣いで、自分自身の述べたいことを自信を持って言うことができる。
	13	C1	アカデミックで複雑な話題について、明確なきちんとした構造を持ったプレゼンテーションができる。補助事項、理由、関連事例を詳しく説明し、論点を展開し、立証できる。
	14	C1	説得力をもって公式に主張を展開でき、質問やコメントに応じ、複雑な筋立ての対抗意見にも、流暢に自然に適切に応えることができる。
	15	C1	ほとんど努力する必要がないくらい、らくらくと流暢に、自然に言いたいことを表現できる。幅の広い語彙が使いこなせ、間接的な表現を使って即座に対話の隙間を埋めることができる。見て分かるような表現探しや、回避の方略はほとんどない。概念的に難しい話題だけが自然でスムーズな言葉の流れを邪魔する。
	16	C2	自分の言いたいことを、長い発話でも、自然で、苦労なく、詰まらずに、流れるように、表現することができる。滞るのは、考えを表現するために最適な言葉を考えたり、適切な例や説明を探そうとする時だけである。
	17	C2	慣用的な表現や口語表現をかなり使いこなすことができ、言葉の裏にある意味まで気がつく。かなりの確に修飾を加えることによって正確に細かいニュアンスまで伝えることができる。表現しにくいところを上手に回避して発話を再構成できるし、対話の相手は修復がなされたことにはほとんど気がつかない。
	18	C2	話題について知識のない聴衆に対しても、自信を持ってはっきりと複雑な内容を口頭発表できる。聴衆の必要性に合わせて柔軟に話を構造化し、変えていくことができる。